

普及活動情勢報告（令和6年3月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

資材の紹介と補助事業の確認
～JA宿毛いちご部会育苗用資材・リノベーション事業説明会～



2月21日、JA宿毛支所でJA宿毛いちご部会育苗用資材・リノベーション事業説明会が開催され、生産者4名、関係機関6名が参加しました。

会では、資材メーカーからいちごの育苗キューブの使用方法和特徴の説明があり、JAからは育苗キューブに交換する際にかかる費用について説明がありました。生産者からは、「育苗キューブが使えれば、管理しやすくなるかも」などの声がありました。

農業改良普及課からは、園芸用ハウスリノベーション事業について説明しました。生産者からは、「どんな資材が対象になるのか」などの質問があり、興味を持っている様子でした。

今後も、関係機関と協力しながら情報提供を行い、いちごの収量・品質の向上に向けて支援していきます。

ライスセンター事業に取り組むぞ！ ～（株）大宮産業臨時総会～



2月25日、四万十市大宮地区で（株）大宮産業の臨時総会が行われました。農家を含む株主40名が出席し、ライスセンター事業に取り組んでいくことを決議しました。

農業改良普及課は、臨時総会に向けて営農計画作成や視察研修の実施を支援してきました。株主からは「農家が減少するが、事業は成り立つのか」、役員からは「担い手を確保して地域を守りたい」などの意見が出ました。

今後は、ライスセンター事業の維持・発展に向けて、補助事業の導入に係る書類作成等を行い、組織運営を支援していきます。

集落農地の維持に向けて法人化・・・「農事組合法人HK集落営農」設立総会・・・



2月24日、三原村広野集会所で「農事組合法人HK集落営農」設立総会が開催され、組合員7名、関係機関6名が参加しました。

令和5年3月11日に集落営農組織「HK集落営農」が設立され、集落の農地を守っていくための活動を開始しましたが、組織活動の強化のために法人化を検討してきました。

農業改良普及課は、関係機関と連携しながら法人化に向けた支援を行ってきました。

代表理事からは、「今後も後継者がなく、引き受け手がない農地を段階的に集積し、集落を守るための取組を進めていく」と意気込みが語られました。

農業改良普及課は、今後も組織の経営安定に向けて支援を継続していきます。

シシトウ作付の準備を始めましょう

～JA宿毛シシトウ部会栽培講習会～



2月27日、JA高知県宿毛支所で、JA宿毛シシトウ部会栽培講習会が開催され、部会員7名、関係機関2名が参加しました。

農業改良普及課からは、今年度作成した栽培マニュアルを配布し、基礎技術の重要性や生育の目安となる部位の見方について説明しました。参加者からは「データがあることで管理の目安が示され、自分たちで生育を判断しながら管理できそう」と栽培に対する前向きな意見がありました。

農業改良普及課は、関係機関と連携し、非辛みシシトウを含めた管内シシトウの栽培振興に取組み、農家の所得向上を目指します。

早く、実が成らないかな！

～クリ幼木の整枝剪定講習会（しまんと流域野菜（株））～



2月28日、3月6日、四万十市高瀬地区の生産者ほ場でクリ幼木の剪定講習会を開催し、生産者6名が参加しました。

農業改良普及課からは、幼木の基本的な剪定方法、樹勢に応じた誘引方法、着果促進、栄養生長を促す剪定について説明しました。参加者からは「つかえ棒で誘引するのは楽だけど、はずれないようにするのは難しい」などの声がありました。

農業改良普及課は、生産者が自身で考えて剪定できるように、適切な指導を続けていきます。

葉先枯れ対策に向けて

～にら若手勉強会（JA高知県佐賀支所にら部会）～



3月7日、黒潮町早咲地区の生産者ほ場で、にら部会若手勉強会を開催し、生産者5名、関係機関4名が参加しました。

農業改良普及課からは、生産者ほ場のハウス内設備及び耕種概要を説明しました。また、葉先枯れの発生時の事例紹介を行い、葉先枯れが発生する条件について、ほ場の環境データを確認しながら説明しました。

参加者からは、「環境制御機器はすぐには導入できないが、どのようなものかは知りたい」、「葉先枯れが発生しそうな日があるかじめ分かれば、対策できるかもしれない」などの声がありました。

今後も、若手生産者を中心に環境制御に関する勉強会を開催し、部会活動を支援していきます。